

arXiv 経緯

1. 平成 28 年の arXiv.org MAB への参加

日本コンソーシアムの代表である引原隆士教授（京都大学図書館機構長）に平成 28 年 9 月 13 日(火)の MAB (Member Adversary Board) に参加いただいた。

平成 28 年度第 1 回運営委員会（9 月 6 日(火)）の意見を引原教授に伝え、MAB で発言いただいた。

- ・ 現在のモデルには限界があるが、まずはダウンロード数の上位機関が、arXiv.org のための費用を拠出していることについて、もっとアピールしてはどうか。現在は Web ページにリストが掲載されているだけである。
- ・ ある分野のグリーン OA であるプレプリントサーバは、商業出版社のカウンターパートとなる。プレプリントサーバがあることで、その分野のグリーン OA 化が広がる要因となる。
例：医学系は PubMed Central, 物理系は arXiv.org。Social Science Research Network の動きは人社系に OA が広がるかどうかの大きなポイントだった。

2. 次世代 arXiv 検討プロジェクト

平成 28 年 12 月に arXiv 本部から引原教授に次世代プロジェクトについてインタビューの申込があった。日本コンソーシアム参加機関に、プロジェクトの検討事項について遺漏がないか、余分な項目がないか意見を求めた。1 月に回答結果を引原教授に伝え、引原教授から arXiv 本部にメールで回答した。

3. 2018-2022 年の arXiv 持続可能プラン（資料 3-1-2）

平成 29 年 4 月に arXiv 本部が発表。日本コンソーシアム参加機関に平成 29 年 4 月 21 日付国情研コ第 13 号にて通知。

4. 平成 29 年の arXiv.org MAB への参加（資料 3-1-3）

日本コンソーシアムの代表である引原隆士教授（京都大学図書館機構長）に平成 29 年 10 月 5 日(木)の MAB (Member Adversary Board) に参加いただく予定である。

平成 28 年度同様、運営委員会の意見を引原教授にお伝えする予定である。

引原先生から MAB に議題（arXiv と機関リポジトリの協力関係、日本コンソーシアムの負担について）を提案した。